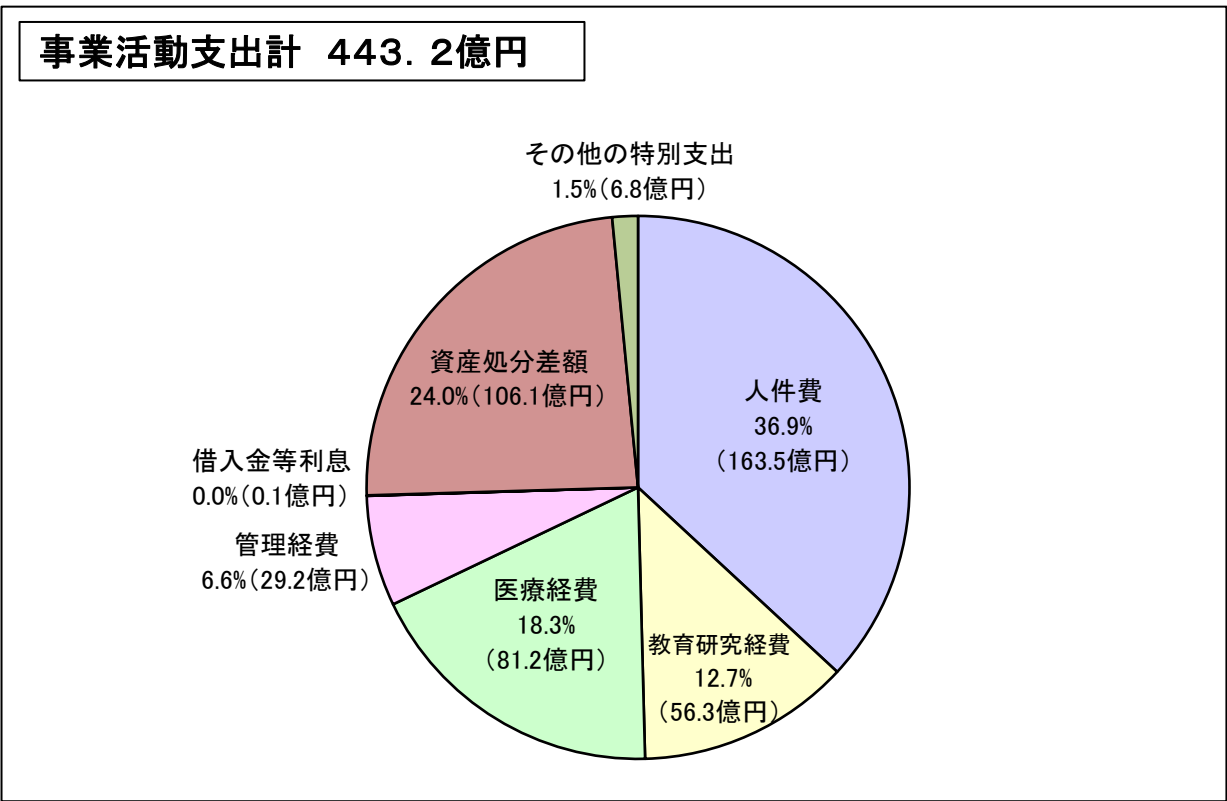
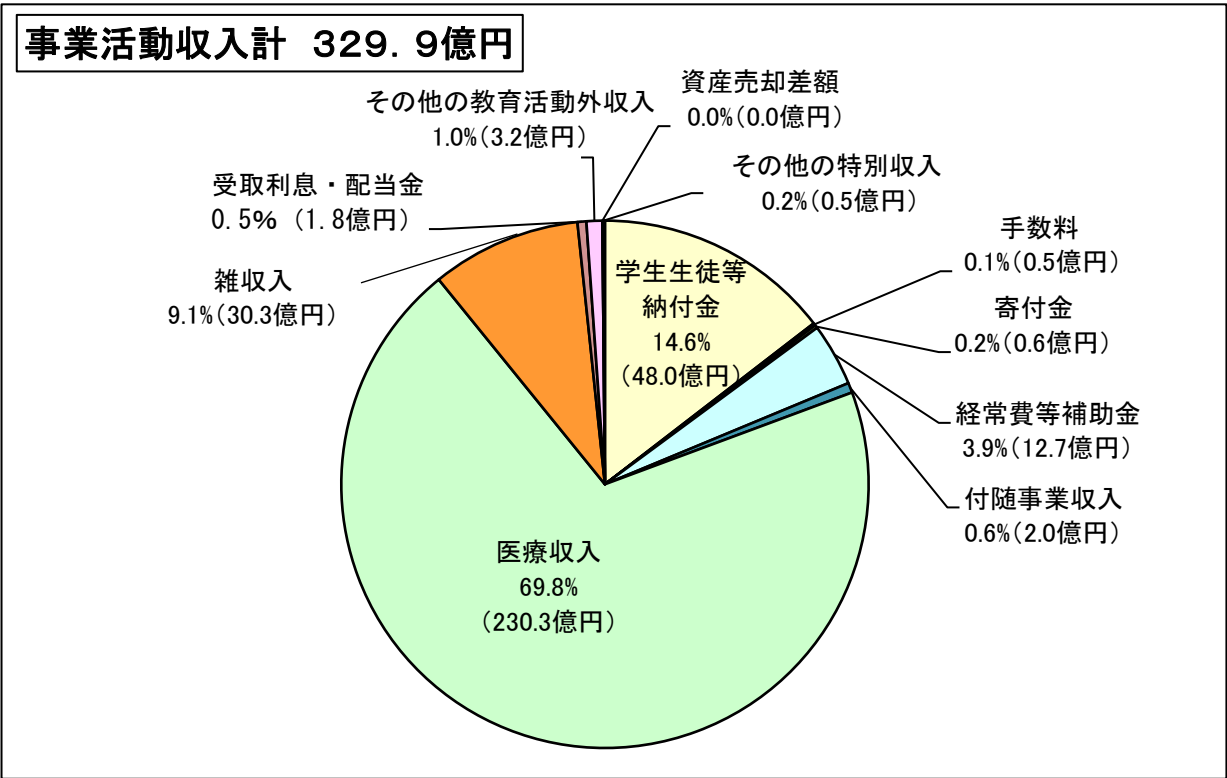
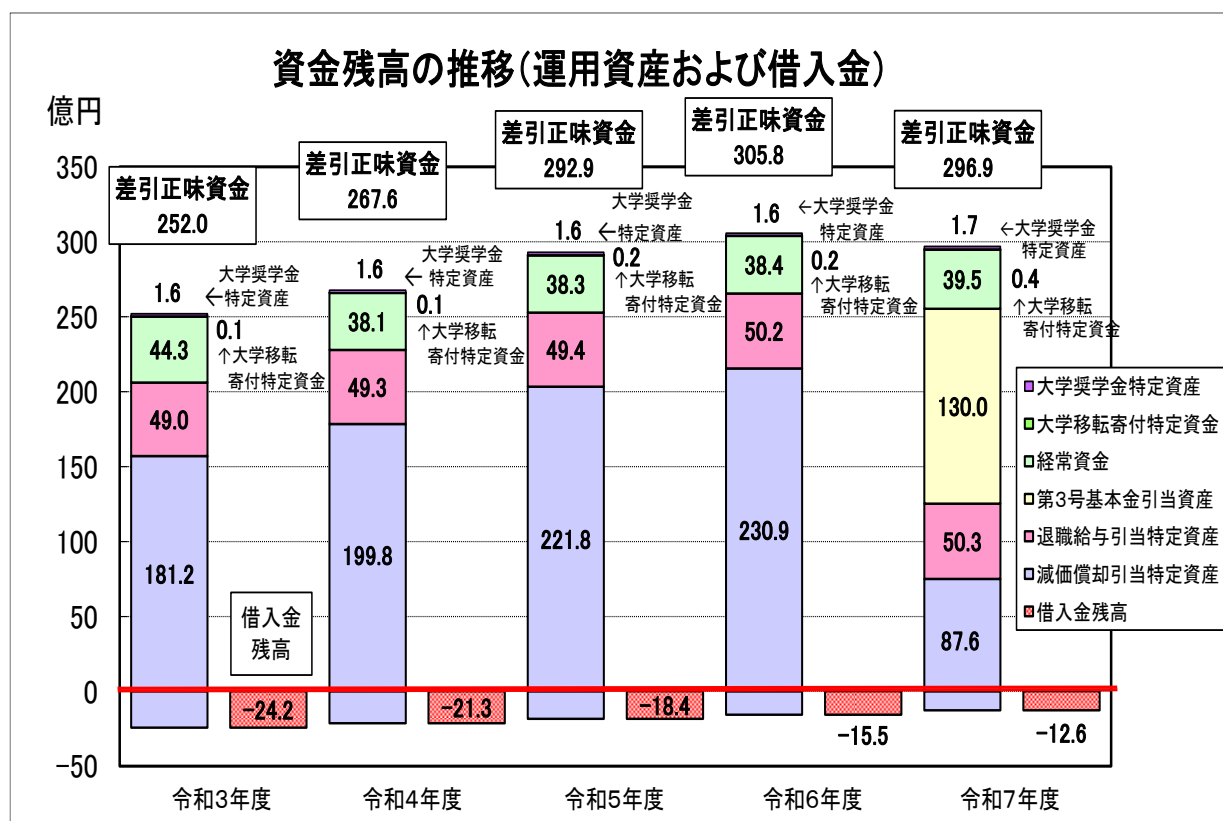


⑤グラフや図表を活用した資料

(1) 令和7年度事業活動収支科目構成

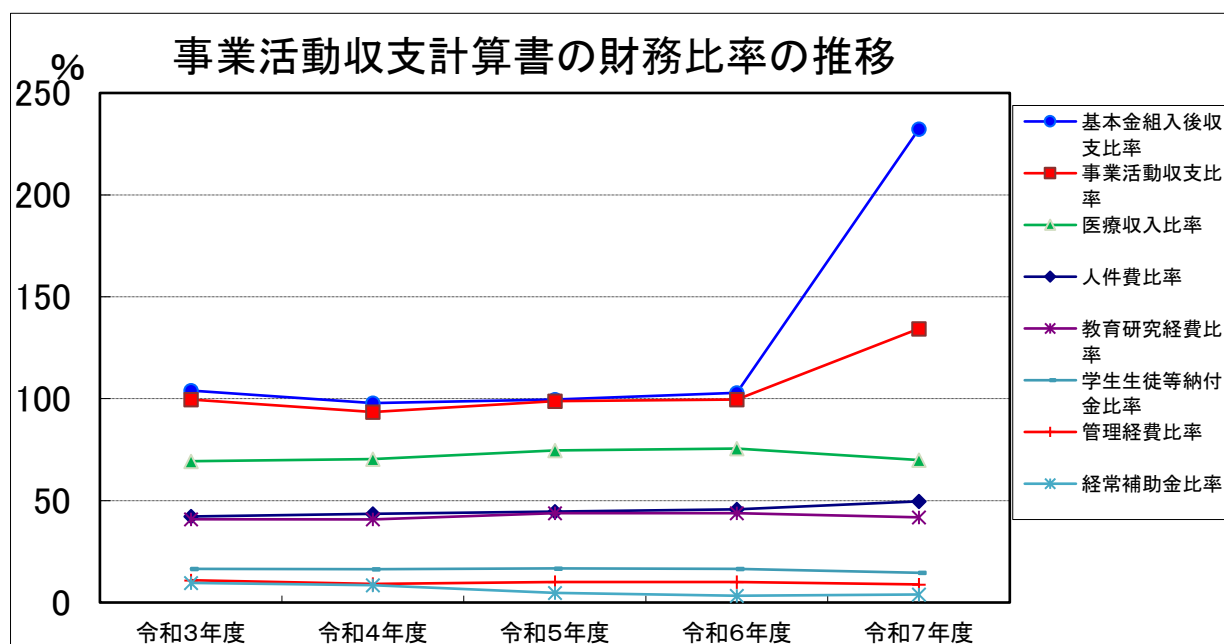


(2) 運用資産および借入金残高の状況



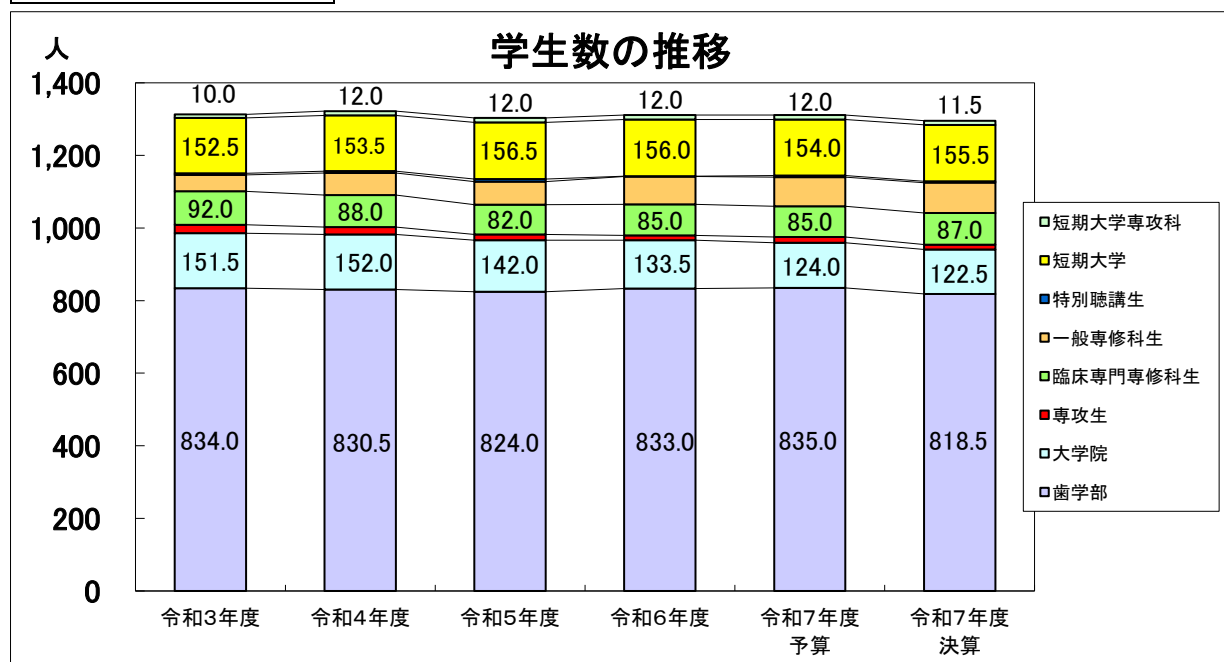
運用資産は、令和7年度決算では、特定資産・経常資金合わせて前年度より約12億円減の約309億5,000万円となった。日本私立学校振興・共済事業団と銀行からの借入金約12億6,000万円を除く差引正味資金は約296億9,000万円である。また大学移転寄付特定資産は約4,000万円となった。さらに、退職給与引当金の100%の額を退職給与引当特定資産として約50億3,000万円保持しているほか、大学奨学金特定資産として約1億7,000万円、減価償却引当特定資産として約87億6,000万円を保持している。また、令和7年度から第3号基本基金引当特定資産を新たに設定し約130億円を保持している。

(3) 財務趨勢比率の推移



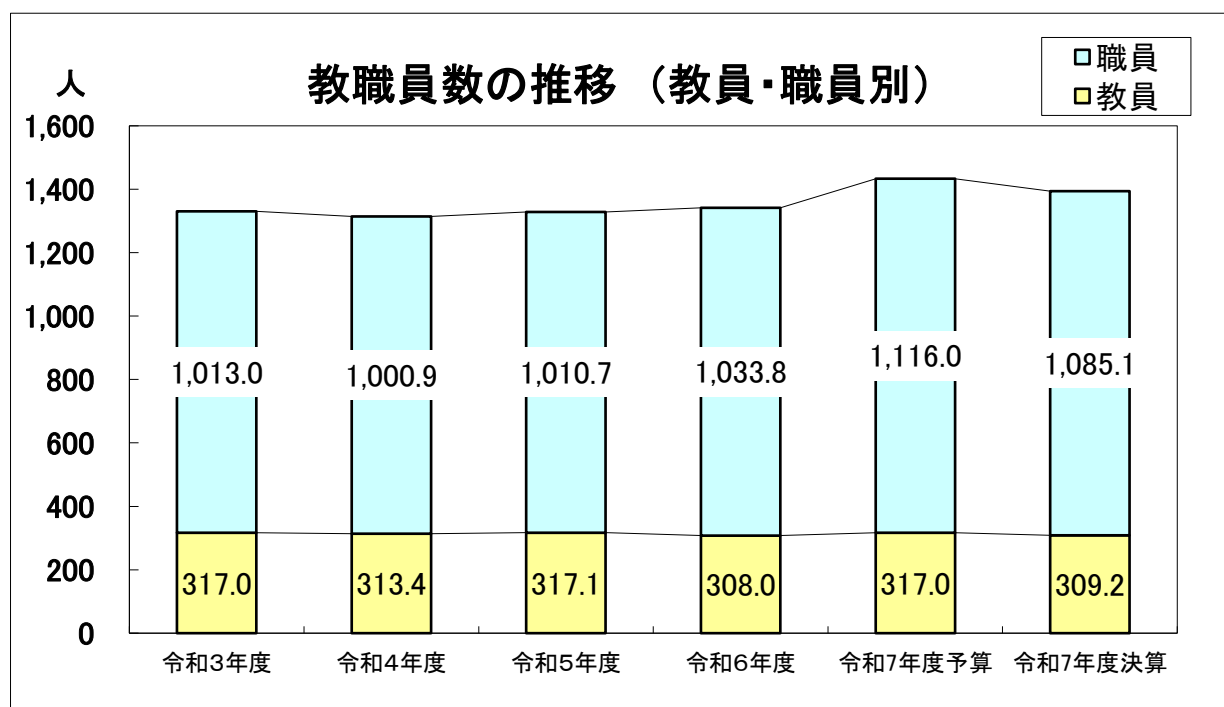
基本金組入後収支比率については、令和3年度は医療収入や経常費等補助金の増などにより104.0%となった。令和4年度は前年度の千葉校舎解体に伴う臨時的支出に比べ管理経費や資産処分差額などの支出が大きく減少し、比率は97.8%となった。令和5年度は水道橋校舎南棟の解体などがあり99.6%と増加した。令和6年度は人件費の増、水道橋病院で医療情報システムの導入などがあり103.0%と増加した。令和7年度は市川総合病院譲渡による資産処分差額の大幅増などにより232.3%と大きく増加した。

(4) 学生数の推移



※ここでの学生数は、学生生徒等納付金から出したものであり、学校基本調査の値とは異なる。

(5) 教職員数の推移



教職員数のグラフは年度ごとの教職員の充足人員を表している。